

令和4年度授業計画

●科目名	言語聴覚障害総論Ⅲ	●講師名	専任教員
●授業のねらい	言語聴覚士の基礎知識を総合的に身に付ける。		
●学習目標	言語聴覚士になるためには総合的な知識が必要になる。そこで本講義では、言語聴覚法で必要な知識を身に付けることを目標とする。		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	イントロダクション	概要および進め方について 4月8日
	2	必須知識概要	分野別必須知識について 4月8日
	3	総合到達度評価 1	7月1日
	4	総合到達度評価 1	7月1日
	5	必須基礎知識分析	分野別の到達度の把握を行う
	6	総合到達度評価 2	8月30日
	7	総合到達度評価 2	8月30日
	8	必須基礎知識分析	分野別の到達度の把握を行う 9月6日
	9	総合到達度評価 3	12月5日
	10	総合到達度評価 3	12月5日
	11	必須基礎知識分析	分野別の到達度の把握を行う 12月12日
	12	試験	1月10日
	13	試験	1月10日
	14	試験	1月10日
15	試験	1月10日	
●成績評価	試験100%		
●教科書	言語聴覚士テキスト第3版(医歯薬出版)		
●参考書			
●備考			

令和4年度授業計画

●科目名	言語聴覚障害診断学		●講師名	専任教員
●授業のねらい	臨床における総合的な視点を持ち、対応する能力を身につける			
●学習目標	言語臨床の基本理念や手順を理解し、種々の検査の実施と観察の記録を行い、確定診断に必要な情報を抽出することが出来る。			
●方法	演習			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	成人領域	ワークショップ形式でスクリーニング検査を作成・実施する。	
	2	成人領域	ワークショップ形式でスクリーニング検査を作成・実施する。	
	3	成人領域	ワークショップ形式でスクリーニング検査を作成・実施する。	
	4	成人領域	ワークショップ形式でスクリーニング検査を作成・実施する。	
	5	成人領域	ワークショップ形式でスクリーニング検査を作成・実施する。	
	6	小児領域	診療記録の書き方の復習	
	7	小児領域	配信：ケース①訓練場面の観察記録⇒診療記録の作成	
	8	小児領域	ケース①診療記録のフィードバック	
	9	小児領域	配信：ケース②訓練場面の観察記録⇒診療記録の作成	
	10	小児領域	ケース②診療記録のフィードバック	
	11	聴覚領域	聴覚障害の評価についての復習	
	12	聴覚領域	聴力検査結果からの考察	
	13	聴覚領域	成人難聴 評価サマリーの作成 1	
	14	聴覚領域	成人難聴 評価サマリーの作成 2	
15	試験			
●成績評価	試験40% スクリーニング作成（成人）30%、診療記録提出（小児）30%			
●教科書				
●参考書				
●備考				

●科目名	総合演習Ⅲ		●講師名	専任教員
●授業のねらい	言語臨床においては、幅広い領域の専門知識を俯瞰し、統合的な視点にたつことが求められる。総合演習Ⅲでは、実際の臨床を理解するとともに、地域社会における言語聴覚士の役割を知ることがねらいとする。			
●学習目標	地域リハビリテーション、地域活動を含め総合的、創造的な臨床について、自身の活動として説明することができる。また、自身のアクションプランをエビデンスとともに立案することができる。			
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	学習環境・規則	卒業までの概要、推薦等の規則について (4/4)	
	2	実習ガイダンス①	実習手引き配布、実習先発表、経路調査等 (4/4)	
	3	実習ガイダンス②	実習目標ワークシート、履歴書の書き方等 (4/11)	
	4	実習ガイダンス③	実習目標ワークシート、履歴書の書き方等 (4/11)	
	5	実習ガイダンス④	実習目標ワークシート、履歴書の書き方等 (4/11)	
	6	感染対策①		
	7	感染対策②		
	8	就職ガイダンス		
	9	地域リハビリテーション①	地域リハビリテーション	
	10	地域リハビリテーション②	地域リハビリテーション	
	11	検査練習①		
	12	検査練習②		
	13	検査練習③		
	14	検査練習④		
	15	検査練習⑤		
	16	検査練習⑥		
	17	検査練習⑦		
	18	実習ガイダンス⑤	実習教育者会議準備 (5/9)	
	19	実習ガイダンス⑥	実習教育者会議	
	20	実習ガイダンス⑦	実習教育者会議	
	21	実習ガイダンス⑧	実習教育者会議	
	22	実習ガイダンス⑨	前期実習前ガイダンス (7/4)	
	23	実習ガイダンス⑩	後期実習前ガイダンス (8/29)	
24	実習総括	実習総括 (11/28)		
●成績評価	出席+授業態度+レポート			
●教科書	言語聴覚士テキスト第3版 (医歯薬出版)			
●参考書	なし			
●備考	講義担当者・内容・時期・評価方法については調整中。確定後に掲示する。			

●科目名	失語症演習Ⅱ		●講師名	浜田智哉
●授業のねらい	失語症の評価・訓練選択の流れを理解する			
●学習目標	画像所見から予想される失語症状がわかる 失語症の予後、生活を見据えた長期目標を立てることができる 症例のニーズ、障害の重症度、改善メカニズムに合致したSMARTな訓練計画を立てることができる エラーコントロールされた訓練の手続きが理解できる			
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	情報収集～長期目標の立て方	オンデマンド、資料配信	
	2	情報収集～長期目標の立て方	確認テスト、解説、質疑応答	
	3	検査の選択～短期目標の立て方	オンデマンド、資料配信	
	4	検査の選択～短期目標の立て方	確認テスト、解説、質疑応答	
	5	訓練の立案・掘り下げ検査	オンデマンド、資料配信	
	6	訓練の立案・掘り下げ検査	確認テスト、解説、質疑応答	
	7	訓練の実施	オンデマンド、資料配信	
	8	訓練の実施	確認テスト、解説、質疑応答	
	9	失語症者とのコミュニケーション	オンデマンド、資料配信	
	10	失語症者とのコミュニケーション	確認テスト、解説、質疑応答	
	11	失語症臨床デザインとエビデンス	オンデマンド、資料配信	
	12	失語症臨床デザインとエビデンス	確認テスト、解説、質疑応答	
	13	報告書の作成	オンデマンド、資料配信	
	14	報告書の作成	確認テスト、解説、質疑応答	
15	定期試験			
●成績評価	確認テスト（50点）＋筆記試験50点			
●教科書	標準言語聴覚障害学 失語症学 医学書院			
●参考書	適宜配布する			
●備考	解説、質疑応答ではKWL法を用いる			

●科目名	高次脳機能障害演習Ⅱ		●講師名	黒川・浜田・阿部・水尻・山本
●授業のねらい	記録および評価・訓練までの臨床的知識を運用する能力を身につける			
●学習目標	基本情報・画像から評価法の選択をし、評価結果から訓練の方針を立てることができること、評価・訓練内容をカルテに系統的に記載ができることを目標とする。よって、前提の知識として、脳機能や障害、評価方法を理解できること、検査を選択し実施できること、基本的なスクリーニング課題を理解していることが求められる。また、評価から訓練立案までを区切りながら、問題解決型学習を用いてどのようなアクションがふさわしいかを自主的に学ぶ。総合的な能力が要求されるため、他の教科も含め復習をしておくこと。			
●方法	演習			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	カルテ記載練習	カルテ記載のルール・ドリル演習 (対面)	
	2	カルテ記載練習	カルテ記載のルール・ドリル演習 (対面)	
	3	カルテ記載練習	カルテ記載のルール・ドリル演習 (対面)	
	4	カルテ記載練習	カルテ記載のルール・ドリル演習 (対面)	
	5	カルテ記載練習	カルテ記載のルール・ドリル演習 (対面)	
	6	カルテ記載練習	カルテ記載のルール・ドリル演習・症例演習 (対面)	
	7	症例1	ワークショップ(脳画像、情報収集、検査、訓練立案)、解説	
	8	症例2	ワークショップ(脳画像、情報収集、検査、訓練立案)、解説	
	9	症例3	ワークショップ(脳画像、情報収集、検査、訓練立案)、解説	
	10	症例4	ワークショップ(脳画像、情報収集、検査、訓練立案)、解説	
	11	症例5	ワークショップ(脳画像、情報収集、検査、訓練立案)、解説	
	12	症例6	ワークショップ(脳画像、情報収集、検査、訓練立案)、解説	
	13	症例7	ワークショップ(脳画像、情報収集、検査、訓練立案)、解説	
	14	症例8	ワークショップ(脳画像、情報収集、検査、訓練立案)、解説	
15	試験			
●成績評価	試験100%			
●教科書	これまでに持っているものすべて			
●参考書				
●備考				

●科目名	言語発達障害演習Ⅱ	●講師名	馬目雪枝
●授業のねらい	言語発達障害児の状態を客観的、具体的に把握し、適切に言語聴覚療法を適用できる。		
●学習目標	①言語発達障害の支援方法について理解し、対象児に合わせて適切に適用できる ②主訴や発達歴などの情報と実施した検査の結果を統合して対象児の全体像を把握し、ICFに沿って整理したうえで、目標の設定と訓練の立案を遂行できる ③「症例報告書」としてまとめることができる		
●方法	講義・演習・その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	言語聴覚療法の流れ	初回の問診や評価の復習
	2	ケーススタディ①	初回評価のまとめ
	3		訓練立案と発表
	4		再評価と症例報告書の作成
	5	ケーススタディ②	初回評価のまとめ
	6		訓練立案と発表
	7		再評価と症例報告書の作成
	8	ソーシャルスキル・トレーニング (SST)	講師調整中
	9		
	10	応用行動分析 (ABA)	株式会社ルクリエ 言語聴覚士 佐藤陽子先生
	11		
	12	太田ステージ	東大和療育センター 臨床心理士 亀井真由美先生
	13		
	14	ボバースアプローチ	東京リハビリ訪問看護ステーション板橋 言語聴覚士 高林喜美子先生
15			
●成績評価	レポート100%		
●教科書	建帛社「言語聴覚士のための臨床実習テキスト小児編」		
●参考書			
●備考			

令和4年度授業計画

●科目名	脳性麻痺・重複障害		●講師名	坂口 しおり
●授業のねらい	脳性麻痺及び重複障害の病態や発達、支援について理解する。			
●学習目標	①言語聴覚士の支援領域である脳性麻痺、重複障害の病態や発達を理解する。 ②脳性麻痺、重複障害の小児の言語的な評価について演習等を通して理解する。 ③脳性麻痺、重複障害のある小児の実際の支援について、演習等を通して理解する。 ④重複障害児等の指導に有効なインリアル・アプローチへの理解を深める。			
●方法	講義・演習・その他			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	脳性麻痺の定義と病態	脳性麻痺の定義や主要な病態をスライドと映像等を用いて紹介する。	
	2	脳性麻痺の言語指導	脳性麻痺児の言語指導についてスライドと映像等紹介する。	
	3	健常児の言語発達①	健常児のコミュニケーション発達をスライドと映像等を用いて紹介する（0歳～6歳）。	
	4	健常児の言語発達②	健常児のコミュニケーション発達をスライドと映像等を紹介する（7歳～18歳）。	
	5	インリアル・アプローチ①	インリアル・アプローチの基礎理論を紹介する。	
	6	インリアル・アプローチ②	映像を用いてインリアル・アプローチの演習を行う。	
	7	重度重複障害児の言語指導①	重度重複障害児の言語指導を映像等を用いて紹介する。	
	8	重度重複障害児の言語指導①	最重度重複障害児の言語指導を映像等を用いて紹介する。	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				
●成績評価	レポート提出			
●教科書				
●参考書	・坂口しおり：『絵で見ることばと思考の発達』ジアース教育新社、 価格：1,200円＋税（予定） ・坂口しおり：『コミュニケーション支援の世界』ジアース教育新社、 価格：2,200円＋税（予定）			
●備考	※講義内容や順番が変更となることがあります。			

●科目名	学習障害		●講師名	宇野彰
●授業のねらい	学習障害を理解することで臨床の基礎を身につける。			
●学習目標	学習障害を理解することで、その障害のある子どものおかれている状況を把握し、どのように指導・支援したらよいかについて考える力をつける			
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	小児失語	定義、成人失語症との相違点と共通点、伝統的臨床像と現代の臨床像との相違点と共通点	
	2	学習障害の定義と下位分類	学習障害の医学界、教育界における定義の共通点と相違点、教育界における学習障害の下位分類	
	3	特異的言語障害	特異的言語障害の定義と症状、大脳機能低下部位	
	4	発達性読み書き障害	発達性読み書き障害（発達性ディスレクシア）の用語の使い方、定義、1－4までの内容に関する学習確認小テスト（1）、模範解答と解説	
	5	発達性読み書き障害の大脳機能異常部位、症状	大脳機能異常部位、ビデオ視聴、症状	
	6	発達性読み書き障害の出現頻度	発達性読み書き障害の出現頻度、文字言語構造の影響	
	7	文字習得に関連する認知能力	5-7までの内容に関する小テスト（2）模範解答と解説、音韻能力、視覚認知能力、自動化能力、語彙力	
	8	学習障害の検査法	知能検査、習得度検査、文字習得に関連する認知能力	
	9	学習障害の指導と支援	科学的根拠に戻ついた指導法、支援についてのビデオ視聴	
	10	定期試験	試験の実施、模範解答と解説	
	11			
	12			
	13			
	14			
15				
●成績評価	授業での成績10点、定期試験90点、の合計100点			
●教科書	資料を配布します			
●参考書	千葉リョウコ著「うちの子は字が書けない」ポプラ社、宇野彰、千葉リョウコ著「うちの子は字が書けないかと思ったら」ポプラ社			
●備考	基本的には対面式の講義を予定しているが、状況によってはon demandかZoomリアルタイム方式の授業もあり得ることを想定願います。			

●科目名	発声発語・嚥下障害演習Ⅱ		●講師名	三原啓正、山田英貴、城玄治
●授業のねらい	発声発語・嚥下障害患者の評価方法を学ぶ			
●学習目標	運動障害性構音障害や摂食嚥下障害の訓練を説明できる 運動障害性構音障害や摂食嚥下障害の訓練を実施することができる 運動障害性構音障害や摂食嚥下障害がある患者が抱える問題を患者や家族に説明できる 運動障害性構音障害や摂食嚥下障害がある患者や家族の援助ができる			
●方法	講義・演習・その他			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	リスク管理（誤嚥・窒息対処）	リスク管理（誤嚥・窒息対処）について学ぶ	
	2	間接嚥下訓練（座学：口腔ケア）	口腔ケアの基礎を学ぶ	
	3	間接嚥下訓練（実技：口腔ケア）	口腔ケアの実技を学ぶ	
	4	間接嚥下訓練 （座学：呼吸・口腔器官等）	間接嚥下訓練の基礎を学ぶ	
	5	間接嚥下訓練（実技）	間接嚥下訓練の実技を学ぶ	
	6	直接嚥下訓練（座学）	直接嚥下訓練の基礎を学ぶ	
	7	神経筋電気刺激 （ジェントルスティム・バイタルスティム）	神経筋電気刺激を学ぶ	
	8	直接嚥下訓練（実技）	直接嚥下訓練の実技を学ぶ	
	9	構音器官の機能訓練 構音動作訓練・音の産生訓練	構音器官訓練の基礎を学ぶ	
	10	発話速度のコントロール 訓練の注意点	構音器官訓練の応用を学ぶ	
	11	補綴的治療（PLPなど）	補綴的治療を学び構音に活かす	
	12	摂食嚥下障害・運動障害性構音障害症 例 など *その他あり	症例を通して訓練の流れを学ぶ	
	13	家族指導（栄養指導、NST含む）	家族指導（栄養指導、NST含む）について学ぶ①	
	14	家族指導（栄養指導、NST含む）	家族指導（栄養指導、NST含む）について学ぶ②	
15				
●成績評価	筆記試験などで評価を行う			
●教科書				
●参考書				
●備考				

令和4年度授業計画

●科目名	補聴器	●講師名	三浦悠水
●授業のねらい	補聴器について正しい知識を学び、リハビリとしての捉え方を理解する。		
●学習目標	補聴器についての基本的知識を理解する。 補聴器装用者への必要な指導が説明できる。 難聴者に対してのアプローチ方法を幅広く考えられる。 言語聴覚士としての補聴器へのかかわり方を理解する。		
●方法	講義・演習・その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	補聴器の基礎知識①	補聴器の機能や効果、装用指導、認知症との関連、適合検査etc
	2	補聴器の基礎知識②	補聴器の機能や効果、装用指導、認知症との関連、適合検査etc
	3	耳型採取・聴力検査	耳型採取の基礎知識、補聴器の調整に必要な聴力検査
	4	ゲスト講和	装用者の体験談、メーカーの取り組み
	5	補聴器の調整①	補聴器の器種選択や調整の学習・演習
	6	補聴器の調整②	補聴器の器種選択や調整の学習・演習
	7	補聴器の調整③	補聴器の器種選択や調整の学習・演習
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
●成績評価	試験（70%）、レポート（30%）		
●教科書	配布資料		
●参考書			
●備考	ゲスト講和を聞いてのレポートを提出していただきます。		

●科目名	視覚聴覚二重障害		●講師名	前田 晃秀
●授業のねら	視聴覚二重障害者（盲ろう児・者）の状態像を理解し、その評価と支援の方法について学ぶ			
●学習目標	①障害程度、発症時期・順序による分類と状態像を理解する。 ②さまざまなコミュニケーション手段を理解する。 ③コミュニケーション手段の導入の際の評価と支援の方法を理解する ④先天性盲ろう児の発達論的観点と教育方法について理解する。 ⑤視聴覚二重障害の発症に関わる疾患について理解する。 ⑥視聴覚二重障害者が活用可能な社会資源について理解する。			
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	視聴覚二重障害とは	オンデマンド：定義、障害の状態・程度、受障経緯	
	2	コミュニケーション手段①（聴覚）	オンデマンド：音声（聴覚）によるコミュニケーション手段	
	3	コミュニケーション手段②（視覚）	オンデマンド：弱視手話、筆談によるコミュニケーション手段	
	4	コミュニケーション手段③（触覚）	オンデマンド：触手話、指点字等によるコミュニケーション手段	
	5	先天性盲ろう児の評価と対応①	オンデマンド：先天性盲ろう児の実態とコミュニケーション	
	6	先天性盲ろう児の評価と対応②	オンデマンド；先天性盲ろう児の発達支援	
	7	盲ろうの病理、福祉的支援	オンデマンド：原因疾患、生活実態と社会資源	
	8	定期試験		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				
●成績評価	試験（100%）			
●教科書	使用しない			
●参考書	全国盲ろう者協会編「盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会指導者のための手引書」 <a href="http://www.jdba.or.jp/db/profile.cgi?v=1463638851&amp;tpl=view2">http://www.jdba.or.jp/db/profile.cgi?v=1463638851&amp;tpl=view2</a>			
●備考				

●科目名	聴覚障害演習Ⅱ		●講師名	澤田 光毅
●授業のねらい	聴覚障害の評価やリハビリテーション、社会福祉資源について理解する			
●学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補聴器や人工聴覚器について理解する</li> <li>・聴覚障害児・者の指導・訓練計画を理解する。</li> <li>・特異的な聴覚障害を理解する。（視覚聴覚二重障害、重複障害は除く）</li> <li>・聴覚障害児・者を取り巻く問題と活用できる社会資源を理解する。</li> </ul>			
●方法	講義・演習・その他			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	聴覚障害のリハビリテーションの概要	内容と構成、言語聴覚士の役割と指導機関・方法	
	2	聴覚補償機器 1	補聴器	
	3	聴覚補償機器 2	人工聴覚器	
	4	聴覚補償機器 3	補聴援助システム	
	5	小児の指導・訓練 1	小児聴覚障害の特徴	
	6	小児の指導・訓練 2	ハビリテーションプログラムの立案	
	7	成人の指導・訓練 1	成人のリハビリテーションの目的と観点	
	8	成人の指導・訓練 2	成人のコミュニケーション障害の改善	
	9	特異的な聴覚障害 1	中枢性聴覚障害	
	10	特異的な聴覚障害 2	機能的聴覚障害	
	11	情報保障 1	情報保障とバリアフリー	
	12	情報保障 2	情報保障を実現するための対応	
	13	聴覚障害と社会資源 1	聴覚障害と社会資源	
	14	聴覚障害と社会資源 2	聴覚障害と教育制度	
15	全体のまとめ（定期試験）	定期試験		
●成績評価	定期試験（100%）（レポートを含む）			
●教科書	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版」医学書院. 2021 「聴覚検査の実際 改訂4版」日本聴覚医学会編. 南山堂. 2017			
●参考書	「新耳鼻咽喉科学 第11版」 南山堂. 2013年			
●備考	講義項目は前後することがあります。			